

キルギス共和国概況 概要・政治編

在キルギス日本国大使館
2026年3月

目次

0 国家概要

- 0-1 キルギス概要: 国家の概要①基本情報
- 0-2 キルギス概要: 国家の概要②国土

1 政治動向

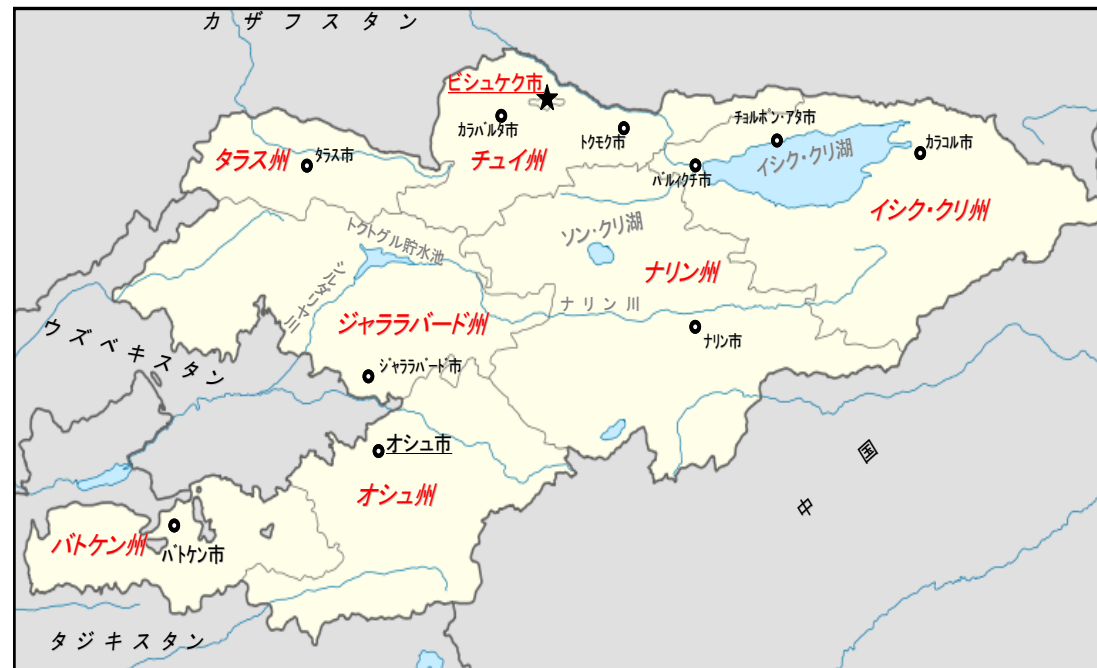
- 1-1 政治体制
- 1-2 キルギスの国家機構
- 1-3 キルギス政府の主要政策
- 1-4 キルギスの議会選挙
- 1-5 キルギス共和国議会の構成
- 1-6 2021年キルギス・タジキスタン国境紛争
- 1-7 キルギス国内のロシア軍基地
- 1-8 2020年議会選挙後からジャパロフ大統領誕生までの動き

0 国家概要

0-1 キルギス概要: 国家の概要①基本情報



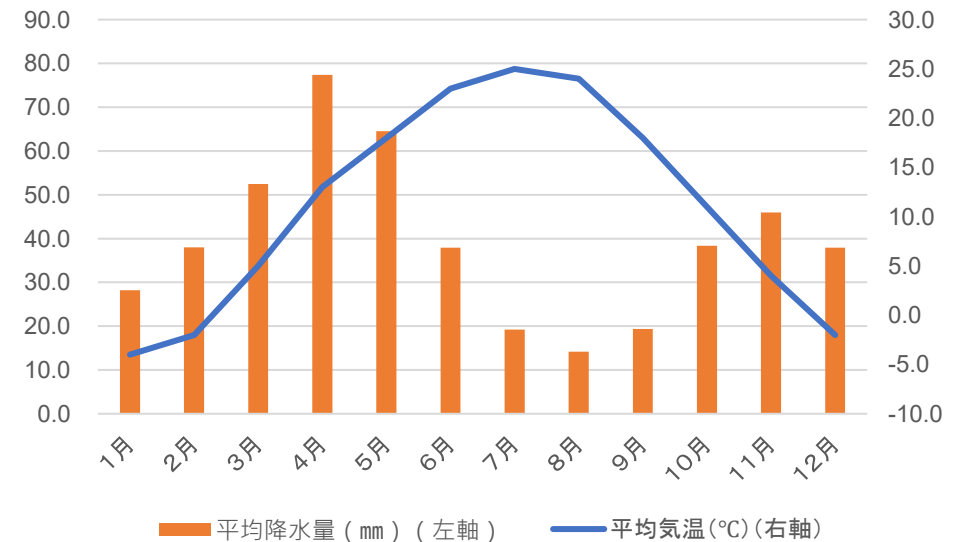
- 国名: キルギス共和国(「キルギスタン」も準用)
- 国旗: 赤地はキルギス国民の勇気を、金色はボズ・ウイ(遊牧民の移動式住居)の天窓部分と40の太陽の光芒を示す。
- 国歌: 「進め、キルギス国民よ」(1992年12月18日採択)
- 人口: 730万人(2025年、国連人口基金)
- 首都: ビシュケク市(札幌市と同緯度)
- 主要都市人口: ビシュケク市(116.5万人)、オシュ市(36.1万人)(2024年1月)
- 男性平均寿命: 68.2歳(2023年)
- 女性平均寿命: 76.5歳(2023年)
- 人口増加率: 1.7%(2024年)



- 通貨: ソム(1992年2月導入。1US\$ = 87.45ソム[2025年7月9日]国立銀行)
- GDP: 198.5億ドル(2025年4月、IMF)
- 国民一人当たりGDP: 2746ドル(2025年4月、IMF)
- 主な宗教: イスラム教スンニ派が多数を占める。憲法上は政教分離。
- 日本との時差: -3時間(夏時間なし)

0-2 キルギス概要：国家の概要②国土

- 面積：19万8500平方km(日本の約半分)
- 位置：ユーラシア大陸中央部、北緯39～43度の間、日本の北海道から東北地方北半分と同緯度。首都ビシュケクは札幌とほぼ同緯度。
北はカザフスタン、西はウズベキスタン、南西はタジキスタン、東は中国新疆ウイグル自治区と接する。
- 地勢：国土の大部分を天山山脈とその支脈アラトー山脈が占める山岳国家(約90%が標高1500m以上、うち40%以上が3000m以上)。天山山脈の最高峰ポベーダ(勝利)峰(標高7439m)の山脈を通過してナリン川(シル川の上流)、タラス川、チュイ川が西に流れており、豊かな水資源がある。厳しい地形・気候から、国土に占める農地(7%)、森林(4%)の割合は少ない。キルギス北東部には、琵琶湖の約9倍(6206平方km)のイシク・クリ湖(流入河川のための塩水湖。冬も凍結しない)がある。
- 気候：大陸性気候で、首都ビシュケクの7月の最高気温は38度、最低気温は12.5度、1月には氷点下25度まで達することがある。国土全般で降水量は少なく、年間降水量は約400ミリ程度。



1 政治動向

1-1 政治体制

サディル・ジャパロフ大統領
(2021年1月28日就任)



【政体】大統領制 【元首】大統領(任期5年、2期まで再選可能)
【議会】一院制(定員90名、任期5年)

- 2021年1月10日に実施された大統領選挙において、ジャパロフ候補が正式に大統領に選出されるとともに、同日実施された国の統治体制(大統領制か議会制か)を問う国民投票で「大統領制」が採択。1月28日、ジャパロフ候補が大統領就任。
- 同年4月11日に憲法改正に係る国民投票が実施され、新憲法草案が承認され、5月5日に新憲法施行。新憲法では、従前の議会制から大統領制に移行。大統領府に内閣を統合し、行政府の権限を一元化。
- 同年8月27日、ジャパロフ大統領が「『選挙』に関する憲法法律の改正に関する」憲法法律(以下、選挙法)に署名し、施行。同年11月28日に、2020年10月より延期されていた第7会期共和国議会選挙の再選挙が実施された。
- 2024年12月、2021年10月より内閣議長兼大統領府長官を務めたアキルベク・ジャパロフが辞任し、カスイマリエフ内閣第一副議長が内閣議長兼大統領府長官に就任。
- 2025年、選挙法の改正が行われ、従来の比例代表・小選挙区並立制から、定数3の選挙区30からなる中選挙区制に改められた。同年9月25日、第7会期共和国議会は任期満了前に自己解散の決定を行い、改正選挙法に基づき、同年11月30日、任期満了前共和国議会選挙が実施された。選挙の結果に基づき、同年12月17日、第8会期共和国議会が開会した。
- 2026年2月、ジャパロフ大統領は、2021年10月より国家保安委員会議長兼内閣副議長を務めたカムチベク・タシエフを解任し、国家保安委員会の改組を発表。これに続き、トゥルグンベク・ウウル・ヌルランベク第8会期共和国議会議長が辞任し、マルレン・ママタリエフ氏が新議会議長に選出された。

1-2 キルギスの国家機構

キルギス共和国憲法に基づき作成

有権者数: 約385万人(人口約703万人)
法案発議: 有権者1万人以上 国民投票発議: 有権者30万人以上

大統領選挙

行政府

大統領(国家元首): サディル・ジャパロフ

【資格】

- ・任期5年、35歳以上、3選禁止

【主要権限】

- ・行政府の長(政府活動の結果に対する責任)
- ・共和国軍最高司令官
- ・安全保障会議の設置及び議長、国務長官の任免
- ・大統領府の設置(長官は内閣議長が兼任)
- ・国際条約の交渉及び署名
- ・国民投票の発議
- ・議会に対する中央銀行総裁候補の提案



大統領府

- ・内閣構成及び閣僚の任免
- ・検事総長の任免
(※議会の同意が必要)

内閣



【構成】

議長兼大統領府長官: アディルベク・カシマリエフ
第一副議長、副議長、各閣僚

【主要権限】

- ・内閣活動の大統領に対する責任
- ・法令(憲法法律、法律、大統領令)の執行、政策の策定及び実施
- ・共和国予算編成
- ・法案提出(議長権限、大統領も法案提出権を有する)

地方自治体の長の任免

地方自治体

【構成】

- ・2特別市(ビシュケク市・オシュ市)
- ・7州(チュイ州、イシク・クリ州、ナリン州、タラス州、オシュ州、ジャララバード州、バトケン州)

【主要権限】

- ・行政区域内の行政権
- ・地方予算編成

大統領弾劾

- ・年次活動報告
- ・議会の臨時招集
- ・法案提出、可決法案の差戻し、法案署名

予算執行に関する年次報告(内閣)

司法評議会の提案に基づき、裁判官候補を議会に提案、両裁判所長官を任命

国家機関の権能に関する紛争の調停

議会議員選挙

立法府

議長: マルレン・マמתリエフ

- ・第一副議長、副議長2名、8つの専門委員会

【議会制度】

- ・一院制、90議席、任期5年
- ・選出方法: 中選挙区制(全国を30の選挙区に分け、1つの選挙区から3人の議員を選出。ジェンダークォータ制を採用。)

【主要権限】

- ・法案の発議及び可決(議員総数の半数以上、憲法法律の場合は2/3以上の賛成が必要)、国際条約の批准・廃棄、予算承認、国民投票の発議
- ・大統領による閣僚、憲法裁判所及び最高裁判所長官、検事総長任命の承認、中央選挙・国民投票管理委員会及び会計検査院委員の選出、大統領の提案に基づく中央銀行総裁の選出
- ・大統領選挙の実施決定
- ・議員総数2/3以上の賛成により議会解散(大統領に解散権はなし)



憲法裁判所及び最高裁判所裁判官の任命

法令・未発効の国際条約審査

司法府

憲法裁判所長官: エミル・オスコンバエフ
最高裁判所長官: メデルベク・サティエフ

【主要権限】

- ・憲法裁判所: 憲法解釈、未発効条約の合憲判断、大統領弾劾決議の審査
- ・最高裁判所: 司法の最高機関、法案提出(所管事項のみ)



1-3 キルギス政府の主要政策

【国家戦略文書】

- 2018年10月、ジェエンベコフ前大統領は、アタムバエフ政権時代の「2012-2017年持続可能な発展戦略」の後継戦略として「キルギス国家発展戦略2018-2040」に署名。
- 2021年11月、ジャパロフ大統領は、前政権の長期ビジョンを共有しつつ、その枠組みで中期戦略「2026年までの国家発展計画」を策定。2022年1月には、ジャパロフ内閣が本計画にかかる「アクションプラン」を採択。
- 2025年6月、「2026年までの国家発展計画」の主要な数値目標が既に達成されたとして、新たに「2030年までの国家開発プログラム」が策定され、ジャパロフ大統領が署名。



目次

1. 将来像と発展目標
2. 人・家族・社会
3. 経済発展とその環境整備
4. 国家統治
5. 2023年までの優先事項
6. 中期段階の初期的取り組み
7. 発展の管理体制



目次

1. 序章
2. 精神的危機対策
3. 現状と成果
4. プログラムの目標
5. 発展の方向性
6. 中小企業支援
7. 金融市場の発展
8. デジタル化
9. 社会開発
10. 国家行政改革
11. 法制度の発展
12. 外交政策と国家安全保障
13. 気候変動への対応
14. プログラム実施管理

◆文書で定められた発展の主要な方向

- ①工業化
- ②地域ハブ化
- ③農業・観光
- ④グリーンエネルギー

長期戦略

「国家発展戦略2018-2040」

- 人・家族・社会の発展(質の高い教育、保健医療、青年政策、家族基盤の強化。文化振興、民主主義国家における宗教のあり方)
- 経済発展とその環境整備
 - 良質なビジネス環境と質の高いインフラ整備を実現
 - 優先的な成長分野として農業、軽工業、観光業を振興
 - 環境保全・気候変動対策との両立
- 国家統治
 - 国家権力の均衡、法の支配、地方自治の発展
 - 安全保障、プラグマティズムに基づく外交政策
 - 国のデジタル化に向けた「タザ・コーム」計画
- 戦略実現のための管理・モニタリング体制

中期戦略

「2030年までの国家開発プログラム」

- 現在の状況とこれまでの成果
 - 2021~24年の経済成長率は平均8%、インフレ率は低下傾向。財政部門は健全化し、歳入は倍増、外貨建て債務は大幅に減少。
 - 外国直接投資も増加傾向。産業部門、特に製造業が成長を牽引。運輸・物流、農業(畜産、植物生産)、食品加工産業、観光、電力部門も好調。
 - 社会部門では、平均寿命の増加、乳幼児死亡率の低下などが見られるが、貧困率や医療サービスへのアクセスに関する課題は残存。

• 数値目標

- 1人当たりGDP4500ドル
- GDP総額300億ドル以上
- 実質GDP平均成長率年8%。

※「2026年までの国家発展計画」で掲げられている数値目標は、以下のとおり。

- 実質GDP平均成長率年5%
- 一人当たりGDP1500ドル

1-4 キルギスの議会選挙

- 2021年1月にジャパロフ氏が大統領に選出された後、選挙法の改正を経て同年11月に2020年より延期されていた第7会期共和国議会選挙の再選挙が実施され、任期5年で90名の議員が選出された(比例代表制で54名、小選挙区制で36名)。
- 2025年6月、2021年8月に改正された選挙法に更に改正を加える新改正憲法法律案が議会で可決され、6月9日にジャパロフ大統領が署名。
- 2025年9月、第7会期共和国議会は2026年秋の任期満了前に自己解散の決定を行い、改正選挙法に基づき、同年11月30日、任期満了前共和国議会選挙が実施された。選挙の結果に基づき、同年12月17日、第8会期共和国議会が開会した。

2021年議会選挙時の選挙法

●議員定数及び議員資格

- ・議員定数:90名(それより以前は120名)
- ・年齢制限:25歳以上
- ・学歴:高等教育を受けていなければならない
- ・議会に占める女性の割合:比例代表で選出される議員のうち少なくとも30%

●選挙方式及び選挙運動

- ・選挙方式:比例代表制(54名選出)及び小選挙区制(36名選出)の並立制
- ・新規に設立された政党も立候補可能
- ・議席獲得のための最低得票率(比例代表制のみ):全体で5%、ビシュケク市・オシュ市を含む各州で0.5%
- ・投票区移動の原則禁止



2025年に署名された改正選挙法

●主な変更点

- ・全国を30の中選挙区に分け、各選挙区から3名の議員を選出する中選挙区制を採用。議員定数は90名を維持。
- ・女性枠は30議席(各選挙区で3名のうち1人は女性が選出される)。

●選挙への立候補

- ・政党からの立候補及び自薦による立候補が可能。
- ・政党は、各選挙区につき自党の議員候補を1名ずつ擁立する。議員候補の擁立は、各候補者が立候補する選挙区を指定して行われる。
- ・自薦の場合、キルギス国民が当該選挙区の候補者として立候補する意思を中央選挙委員会に申請する。自薦の候補者は、1つの選挙区のみ立候補できる。

●議員の選出方法

- ・当選者は、該当選挙区の有権者から最も多くの票を得た上位3人。
- ・女性枠での当選者は、該当選挙区に登録された女性候補者の中で、有権者から最も多くの票を得た候補者である。
- ・辞任した議員の補欠選挙は行われない。

1-5 キルギス共和国議会の構成

(第8会期共和国議会、2026年3月時点)

共和国議会議長
ママタリエフ・マルレン

共和国議会第一副議長
アリエフ・メデル

共和国議会副議長
イブラギモフ・ボロツ

共和国議会副議長
ターライベク・キゼイ・ジルディズ

●議員グループ

議員グループ「インティマク・メケンチル(調和・愛国者)」 22議席

議員グループ長:
マムトフ・タラント(元第5, 6, 7会期共和国議会議員、元共和国議会議長)

議員グループ「エル=ウムトゥ・アタ=ジュルト(国民の期待・祖国)」 15議席

議員グループ長:
ジュマベコフ・ダスタンベク(元第5, 6, 7会期共和国議会議員、元共和国議会議長)

議員グループ「エルディク(国民的)」 19議席

議員グループ長:
トゥモンバエフ・アキルベク(元第7会期共和国議会議員)

議員グループ「イシェニム(信頼)」 13議席

議員グループ長:
シディガリエフ・ヌルベク(元非常事態次官、元第7会期共和国議会議員)

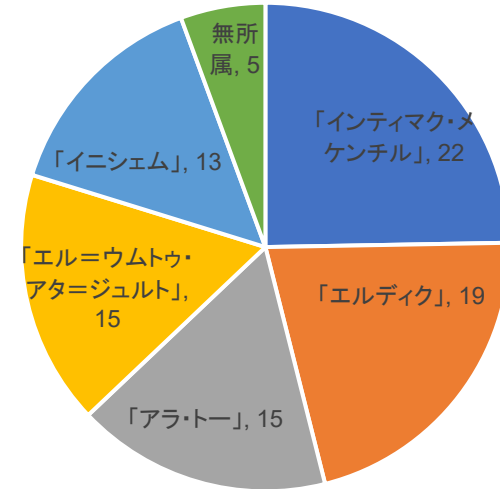
議員グループ「アラ・トー」 15議席

議員グループ長:
マサビロフ・ターライベク(日本・キルギス友好議員連盟会長)

議員グループに属していない議員 5議席

※議員の辞職に伴い繰り上がりで議員となった1名の所属が未定。

議席数: 90議席



●委員会

- ①外交・防衛・安全保障・移民委員会
- ②産業政策・運輸・燃料・エネルギー複合体・建築・建築委員会
- ③憲法司法・国家体制・司法問題・地方自治体・議会規則委員会
- ④財務・予算・起業・競争力発展委員会
- ⑤裁判・法務・法秩序・犯罪対策・汚職防止委員会
- ⑥農業政策・水資源・地下資源利用・エコロジー・環境保護委員会
- ⑦科学・教育・革新開発・デジタル技術・文化・スポーツ・青年問題委員会
- ⑧労働・保健・女性・社会問題委員会

- 共和国議会に「与党」「野党」の概念はなく、議員は自身の意思で「議員グループ」に加入し、また、退会することができる。
- 「議員グループ」は7名以上の議員により結成することができる。

1-7 キルギス国内のロシア軍基地



2012年9月、上記1～4を包括するロシア統合軍事基地協定を締結。2017年1月発効。15年間の期限に加え、5年間の自動延長を伴う。

1 カント第999空軍基地(チュイ州カント市)
• 2003年10月23日開設。

2 第954対潜軍備試験基地「コイ・サリ」(イシク・クリ州カラコル市)

3 第338通信拠点(チュイ州カラ・バルタ市)

4 無線地震観測所(ジャララバード州マイル・スー市)

5 第1自動地震観測所(イシク・クリ州イチケ・スー村)

1-8 2020年議会選挙後からジャパロフ大統領誕生までの動き

※詳細はアーカイブ資料「キルギス共和国独立後のクロノロジー」第2章を御参照ください。

2020年

- 10月4日、共和国議会選挙(第7会期)が実施され、ジェエンベコフ政権寄りの3党が議会定員120議席のうち107議席を獲得する結果となった。
- この結果を受け、「不正な選挙が行われた」とする疑念や選挙結果に対する不満が噴出し、10月5日、野党支持者を中心とする約6000人の市民が選挙のやり直しを求めて集会を行う。
- 10月6日、デモ隊が収監中のジャパロフ元議員、アタムバエフ元大統領、イサコフ元首相等を解放。中央選挙・国民投票管理委員会が4日の選挙結果を無効とする旨発表。議会臨時会合が召集され、ジャパロフ氏が新首相に推薦される。
- 10月10日、議会臨時会合にて全会一致でジャパロフ氏を新首相として承認。
- 12月11日、国の政治体制(大統領制か議会制か)を問う国民投票実施法案が3回の読会を経て議会で可決され、2021年1月10日に大統領選挙と同時に政治体制を問う国民投票が実施されることが決定。

2021年

- 1月10日、大統領選挙及び政治体制を問う国民投票(大統領制／議会制)の実施。ジャパロフ候補が大統領に選出されるとともに、国の統治体制として大統領制が採択された。
- 1月28日、ジャパロフ候補が第6代キルギス大統領に就任。
- 5月5日、ジャパロフ大統領が憲法改正案に署名し、新憲法が公布。
- 8月29日、2020年10月6日に中央選挙・国民投票管理委員会が結果を無効化し、再投票が延期になっていた第7会期共和国議会選挙の日程を11月28日で確定する大統領令にジャパロフ大統領が署名。
- 11月28日、第7会期共和国議会再選挙の実施。